



整枝がカギ

ナスの育て方

(1) 生育に適した環境

ナスはナス科の野菜で、原産地はインド東部です。生育適温は23℃～30℃で、pH 6.0～7.0の砂壤土・壤土を好みます。

(2) 定植準備 (4月下旬～5月中旬)

定植2週間前に、1㎡当たり苦土石灰200gを散布し、よく耕します。1週間前に1㎡当たり、たい肥4kg、化成肥料(8-8-8)150g、重焼燐40g程度施用し、土とよく混ぜて畝立てをします。

(3) 定植 (5月中旬～6月上旬)

畝幅は180cm、株間60cm～80cmで1条植えとします。

(4) 追肥

収穫が始まったら10日間隔に、1㎡当たり化成肥料60g程度を目安に、畝肩に追肥します。

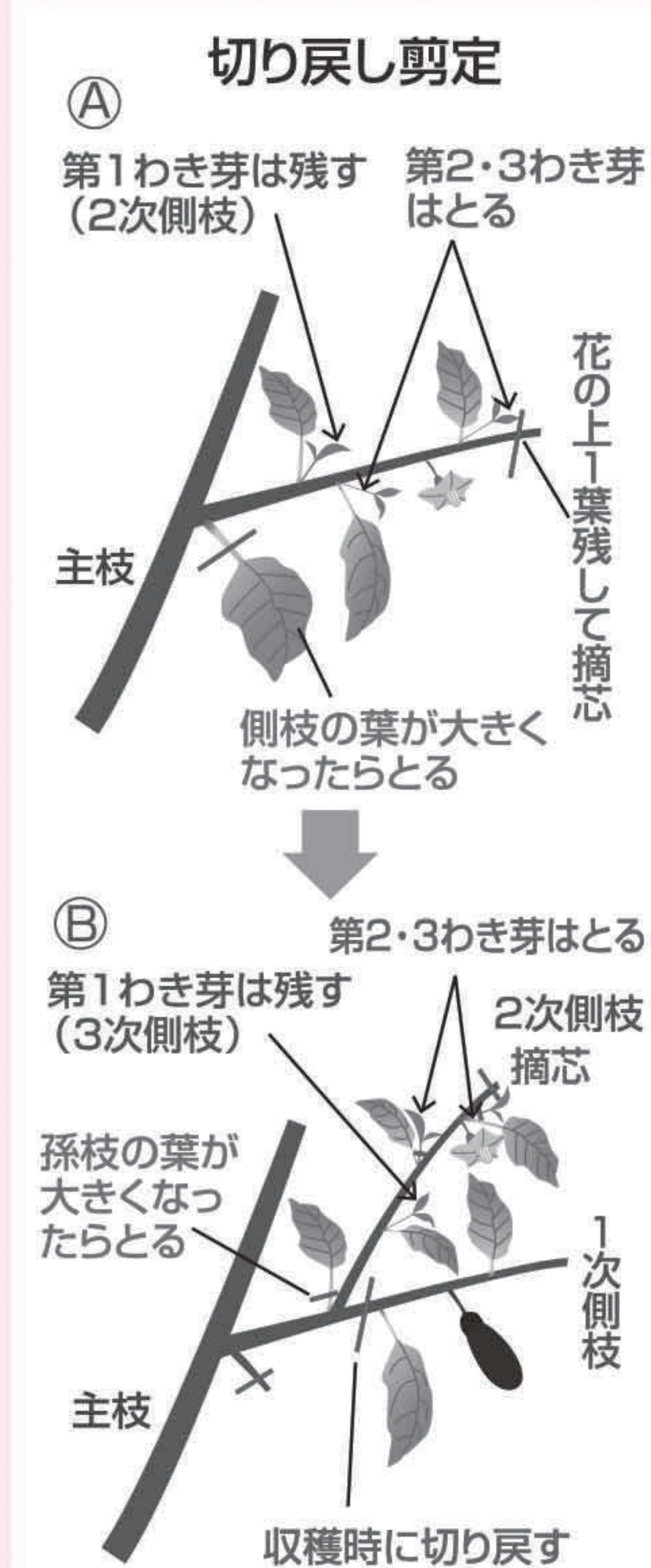
(5) 仕立て方 (4本仕立て)

第1主枝の最初の蕾直下の側枝を第2主枝とし、第1主枝の2番目の蕾直下の側枝を第3主枝とします。第2主枝の最初の蕾直下の側枝を第4主枝として4本仕立てとします。

(6) 側枝の整枝 (左図参照)

主枝から発生した側枝は、1芽切り戻しで整枝するのが基本です。1次側枝の第1花が開花する頃に、花の上の葉を1枚残して摘心します。摘心した後にわき芽も伸ばしますが、第1わき芽だけ残して、第2、第3わき芽は除去します。収穫時に側枝の葉1枚とわき芽を残して切り戻します。

残したわき芽が第2次側枝に生育し、その最初の蕾が開花したら1次側枝と同様に摘心し、わき芽を除去し、収穫時に2次側枝の葉1枚とわき芽を残して切り戻します。これを繰り返していきましょう。



(7) 収穫 (6月下旬～10月下旬)

収穫は早朝に行いましょう。

(文責) 金沢農業大学校長 大藏 捷直



2年間の研修を終え7名が羽ばたきました

「金沢農業大学校」について

金沢市の農業の担い手を育成するため、平成18年3月に開校。販売体験や市場視察、加賀野菜の生産など、2年間の実践的な研修を通じて農を前提にしたカリキュラムを行っています。

(金沢農業大学校のご協力で連載したこのコーナーは今回で終了です。ありがとうございました)